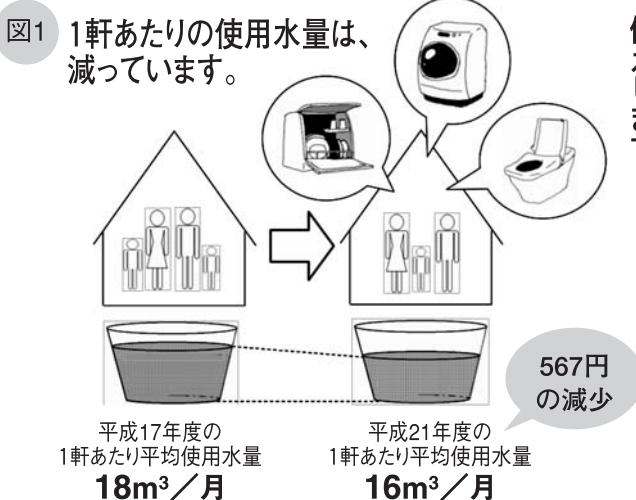


最終回  
二一

# いしかりの水道

## 水道の家計簿

### ② 厳しい台所事情と将来



前回は、水道水を届けるために必要な経費は、水道料金でまかなわれていることをお伝えしました。今回は、料金収入の今後の見通しや市が経費節約のために行っている取り組みと、水道事業の今後の見通しについてお伝えします。

#### 伸び悩む料金収入

石狩市の水道料金収入は、平成19年度までは緩やかな増加傾向が見られたものの、20年度において収入が前年度を下回ることとなりました。

21年度においては、予定外の臨時給水に伴う収入により、20年度をわずかながら上回る見込みですが、19年度の収入には届かない状況です。

市では、主に次の3つの要因から、今後の水道料金収入が伸び続けることは期待できないと考えています。

#### ①少子高齢化等の社会的要因

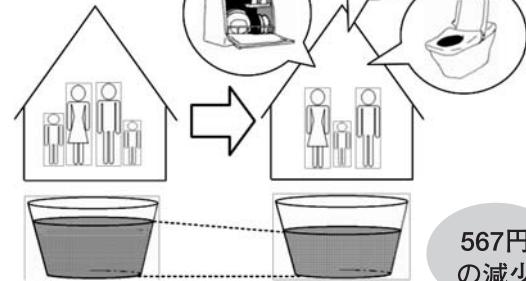
少子高齢化等の影響により、人口の約7割を占める花川北・花川南地区の人口は減少し、平成に入ってから開発が進んだ緑苑台や樽川地区の人口は、増加し続けているものの鈍化傾向にあります。市全体の人口も頭打ちの状態にあることから、今後の料金収入の伸びは期待できなくなっています。

#### ②経済情勢の悪化

これまで増加してきた、石狩湾新港地域に立地している企業の使用水量が、景気低迷の影響で減少しており、収入の伸びが期待できなくなっています。

#### ③節水型機器の普及

1軒あたりの使用水量は、減っています。



平成17年度の  
1軒あたり平均使用水量  
**18m³/月**

平成21年度の  
1軒あたり平均使用水量  
**16m³/月**

567円  
の減少

これまで増加してきた、石狩湾新港地域に立地している企業の使用水量が、景気低迷の影響で減少しており、収入の伸びが期待できなくなっています。

4

浄配水場管理などに民間活力を積極的に導入

**約1億円を削減**

5

検針業務の電算化

**約2千万円を削減**



電算化した検針業務

6

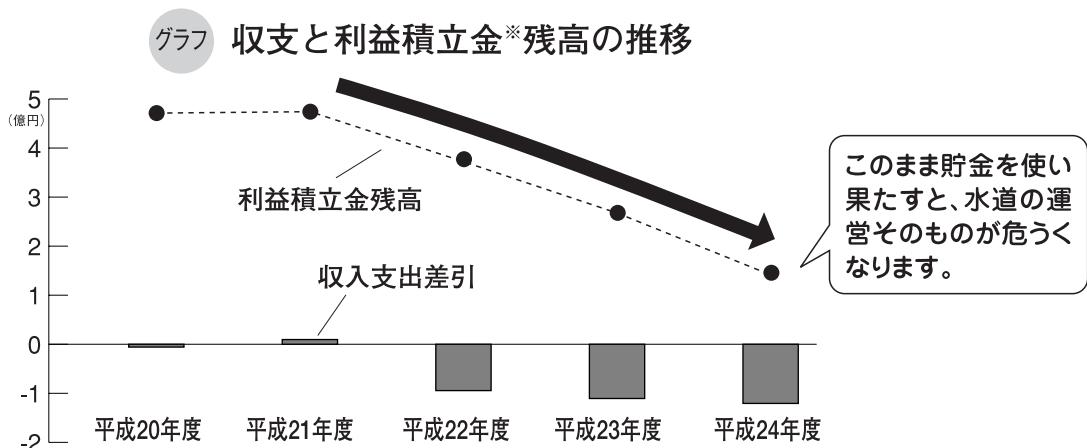
職員定数の見直し

**市村合併時の29人から23人に削減**

平成20～24年の5年間で

**約19億円の経費を削減**

※利益積立金…赤字が生じた場合に備えて積み立てるお金で、家計で例えると急病やけがに際しての医療費や、自動車の故障の修理代など、突發的な費用が生じ、給料が生活費に不足する時に備えて、日々の生活費のやり繰りで蓄えている貯金に当たります。



平成21年度(決算見込み)は、予定外の臨時給水に伴う収入や経営努力により、積立金を取り崩さなくても済む見通しです。

● 貯金取り崩しにも限界が！

今後は、収入が支出に不足する、いわゆる赤字経営が続くことを見込んでいます。毎年生じる赤字については、利益積立金という貯金を使って穴埋めします。しかし、この貯金もこのままで減り続ける一方で、いずれは無くなってしまいます。そうなると、緊急の施設の修理ができなくなり、水道そのものの運営が立ち行かなくなります(グラフ参照)。

このような危機を回避するために市では、今後も引き続き効率的な経営に向けて経費の節約に努めています。しかし、徹底した経費の節約を行ってもお金が不足する現状において、生活に欠かせない水道サービスを今まで通り続けるためには、市民の皆さんと情報を共有し、一緒に話し合う時期に来ていると言えます。

(終わり)

節水意識の高まりと各種節水型製品の普及などにより、資源の有効活用は実践されつつも、使用水量が減少し、これが収入の減収に結びついています(図1参照)。

## ●徹底したコスト縮減！ しかし、費用は増加傾向

老朽化した水道施設をきちんと維持管理するには、多くのお金がかかります。料金収入に限りがある中、市では経費をできる限り節約して、効率的な事業運営を行い、水道サービスを維持するため、さまざまな取り組みを行っています。その結果、平成20～24年度までの間に約19億円の経費が節約できる見通しです(図2参照)。しかし、2月号でもお知らせしたように、まちの発展とともに、給水区域が拡大したことでの維持管理が必要な施設もたくさん増えました。そのため、これだけ節約しても、今後サービス維持のために必要な費用は増え続けることが見込まれています。

